



PTA広報委員会発行
第123号



「褒める」のは難しいが

校長 飯田 知男

子どもを伸ばすのに「褒める」ことが重要なのは明らかです。特に試合や試験の時期、子どもをけなすようなことを言うのはマイナス。人は褒められると勇気が湧いてくるし、随分とやる気が違ってきます。「褒める」という行為は、褒める人が思っている以上に褒めてもらう人にとっては重要で、仕事や勉強の活力になるのです。

とは言っても「褒める」のは難しいものです。教師が生徒を「褒める」、上司が部下を「褒める」ことはまだしも、親が子を「褒める」ことは特に難しいのです。私にも二人の息子がいますが、たまに勉強を教える機会があつても、生徒を「褒める」方ははるかに簡単に思えました。やはり何か恥ずかしさを感じたのだと思います。

日本人は我が子を「褒める」ことが苦手です。「そんなこと言わなくても分かっているはず」という気持ちで働いてしまふ。自分の子どもを「褒める」ことに対して、「親バカ」と思われてしまうのではないかと感じるのはこのあたりに原因があ

るのかもしれませんが。しかも子どもは親に一番褒められたいと思っているのだから、余計に難しいものです。

もう一つ「褒める」ことが難しい理由は、そこに責任が生じるからかもしれません。テスト結果を見て「まだまだ」と言うのは簡単です。次のテストの結果が良くても悪くても自分に責任が生じないからです。しかし、良い結果を「頑張った！この調子なら大丈夫だ」と言ったあとで悪い結果が出ようものなら、「太鼓判を押したのに、こんな結果とは」ということになりかねません。その意味では「褒める」とは、非常に勇気が必要な行為なのです。「がんばった」だけでも良さそうなのですが、子どもは次の言葉、つまり「もう大丈夫」なのか「まだまだ」なのかを聞きたがるものです。「頑張った！この調子で大丈夫だ！」が最良の褒め言葉なのですが、そこには責任が生じ、言いづらくなるのです。

ただし、「褒める」のも「褒められる」のも永遠ではありません。そんなことをしみじみと感じる卒業・進級の時です。



< 令和3年7月13日 昼休み 前庭にて 3年生 >

卒業式にあたり 一年を振り返って

PTA会長 辻 佳代子



第四十五期の皆さん、
ご卒業おめでとうござい
ます。

皆さんが丘珠高校で
過ごした三年間のうち、
約二年間はコロナ禍の中でありました。

長期にわたる学校の休校、外出自粛、大イベン
トである見学旅行も中止となりました。

何度も形を変えて、私たちの生活を脅かす
新型コロナウイルスに、近い未来さえ予測が出来ない
日々が続いています。そんな中で、高校卒業とい
う大きな節目にあたる今日を、どういった想
いで迎えられましたか。楽しい思い出は多いと
は言い難いですが、決して辛く悲しいことばかり
ではなかったはず。丘珠高校で出会った
仲間らは、生の宝物となり、自身の得た経験はこ
れから人生の糧となるでしょう。卒業後はそれ
ぞれが新しい環境で、更に多くの人達や物事に
触れていくのです。『初め』はどんな時でも緊張
します。私が何かを始める時にいつも心に浮か
べる文を紹介いたします。

「あら、私は贈り物のふたを開ける時みたいに
ワクワクしているわ。」
スタジオジブリ映画「魔女の宅急便」の二コマ。急
に当日夜旅行の決めた、魔女のキキを心配
している黒猫のジジに向けたキキの言葉です。
スタートラインに立った時、不安に駆られるよ
り、ワクワクした気持ちを持つ方がずっと人生
を豊かにし明るくしてくれそうです。

校舎ですれ違う時、いつも元気に挨拶をして
くれる丘珠生が大好きです。皆様のご健康と
ご活躍を心よりお祈りいたします。

今年度は昨年度に続きコロナ禍の中、例年の
様には出来ませんでした。が、進路研修会、丘珠
祭でのクッキー作成・配布、視察研修といった活
動を実施して参りました。

保護者の皆様には今年度のPTA・後援会
活動にご理解とご協力を頂きました事、心よ
り感謝申し上げます。

また、校長先生をはじめ教職員の皆様、二階
にPTA活動を支えて頂いた役員の皆様、この
丘珠高だより発行にあたり御尽力・御協力を
頂きました全ての皆様に、厚く御礼申し上げ
ます。

「フレイフレイ45期生！」

三年主任 丸山 稔



四十五期生の皆さん、
卒業おめでとうございま
す。三年前三月十六日の
合格発表を覚えていま
す。生徒玄関前に合格者
番号を張り出した際に、
私はカメラを構えていま
した。この時、皆さんの
ホッとしたようなうれし
い顔を、三年後の皆さん
の進路実現を思い重責を
感じました。

幸い私たちの学年は、担任の先生二人もメン
バーが替わることなく、日頃から意見を交換し
合っていた皆さんと向き合う姿勢ができていま
した。この三年間、皆さんは友だちとはかりでな
く、大いに先生方とも話したのではないでしょ
うか。

生徒・保護者・教員と全部で活動するから
PTAです。コロナで大いに活動が制限され
ましたが、よりよい活動をするために語り合
う時間はかけてきました。生徒は生徒同士、
保護者と、教員とそれぞれ衝突はたくさん
あったと思いますが、何とか乗り越えてきたか
ら今があると思います。

私は日頃皆さん一人ひとりのデータをまとも
に作業をしていましたが、毎年撮る身分証明
用の写真を並べて見比べると、全員顔つきが大
人びてきたのがわかります。高校時代は親か
ら精神的に自立する期間です。モラトリアムを
認めながら、社会(現実)は否応なしに一人
前を要求してきます。皆さんが経験してきた
この山あり谷ありの三年間が大きな成長の糧
となりますように。

「念ずれば、花開く」

三年一組担任 高原 誠己



本日、卒業証書を授
与された第四十五期生
ならびに保護者の皆様、
おめでとうございま
す。また、保護者の皆様にお
かれましては、学校教育
に對しまして、温かいご理解
とご協力をいただきました
こと、深く感謝申し上げま
す。

「念ずれば、花開く」
(愛媛県新居浜の詩人で、坂村真民さんの母の
詩の中の言葉です)
どんな花が咲くのか楽しみです。
大きな花を咲かせてください。

「君の行く先に、 幸せがあふれますように」

三年二組担任 太田 永理



一日はこんなに長い
に、高校三年間の何と短
いことか。「もうすぐ卒
業だなんて。三年間は
あっという間だったよ。」
と話しながら、大雪の交
通障害に負けず最後の残
りの時間を、愛おしむよう
に過ごさずみなさんの
姿を誇らしく見守りました。

とりとめもないような普通
の日の積み重ねがこれからの
あなたの背中を押して行か
ます。丘珠高校での学びと
経験が、大きな支えにな
ることでしょう。私にとつ
ても、みなさんとも
に過ごした三年間は、充
実した、心豊かな経験
でした。

みなさんは、この三年間、
実に多くのことを経験し、
学んでいます。世の中の不
思議や理不尽、社会問題に
ついて、考え表現すること。
自分の心の中に他者を多
く住まわせること。自らに
答えが出ない複雑さや困
難さを目の前にし、バスト
を尽くして待つこと。社会
を、暮らしを平らにするた
めに、自分が何をすべきか
知恵を絞ること。今生きて
いる社会の、ルールやマ
ナーを守ること。自分も他
者も守ること。(記憶に
ないとは言わせません。教
えてますからね。)どんな
に点数がとれども、どんな
に仕事ができても、思いや
りがなければ、世界はま
ういことを、どんなにす
べしでも、自分がされて嫌
なことは人にしなければ
いい。謝つて許して、認め
て褒めて、励まし合えば
いい出でね。

まもなく十九回目の春が
来ます。幾度季節が巡ろう
とも、みなさんの行く先
が、あたたかく、幸せな
ものでありますように、心
から願っています。

「卒業証書授与式に添えて」

三年三組担任 中川 章弘



今日手にする卒業証
書には、みなさんのもの
が詰まっています。

最初に「卒業証書」と
書かれてあり、高等学
校を卒業した証です。
次にあなたの名前が

書かれてあります。世界であ
なただけの証書です。その
名前が高校生活で何度呼
ばれてきたでしょう。担任
が高校生としてあなたの
名前を呼ぶのは、今日が最
後です。

次にあなたの誕生日が書か
れてあります。あなたが産
まれた日です。そして今日
まで生きてきました。色々
なことがあったはずで
す。それを乗り越え、今日
の日を迎えます。あなた
が生まれた日は、どんな日
だったのでしょうか。あ
んな日であったも、家族
はどれほど喜んでくれた
ことでしょう。あなたの
命が生まれた日。今日ま
でのことを振り返って
ください。どれほどの
方にとり、どれほどの
夜泣きをした時、ずっと
寝ずにあやしてくれた
のは誰ですか。入学式
のとき、みんなと同じ
ように制服や通学バック
を用意してくれたのは
誰ですか。風邪で熱が出
た時、看病してくれた
のは誰ですか。忘れ物
をしたとき、そっと学
校へ届けてくれたのは
誰ですか。毎日、お弁
当を作ってくれ、送り
迎えをしてくれたのは
誰ですか。

生まれた日から、た
くさんの人に見守られ
てきました。あなたは
どれだけのことを返す
ことができました。あ
なたにとって、一番
大切な人は、い
ちばん身近にいま
います。証書の真
ん中には、高等学
校の課程を修了し、
卒業したことが大
きく書かれていま
す。その日は令和
四年三月一日です。
人生にはいくつ
かの節目がありま
す。今日はその一つ
で、次のステップ
への大きな節目
です。

最後の番号は、あ
なただけの番号です。
第二回の卒業生から
ずっと繋がっている
番号です。丘珠の
卒業生は三万六千
人を超えます。四十
五回目の卒業生と
して丘珠の伝統を
受け継いでくだ
さい。

「教師生活25年、こんな学年を 持ったことはない！」

三年四組担任 寺西 拓馬



幼い頃、「ど根性ガエル」
というアニメを観て
いた。その中で町田
という古典の先生が、
何かあるたびに「教
師生活25年、私はこ
んな経験をしたこ
とはない」という決
め台詞を言っ
て、よく涙を流して
いた。幼い頃の私
には、この町田先生
の「教師生活25年」
とは、とてもで
きない大きなもの
のように感じていた。
しかし、私自身も、
今年が教師生活25
年目というこ
とに最近気づいて
驚いた。

私個人としては、今
回は五回目の卒業担
任となるが、初めて
のことがある。それ
はクラスから退学
者や停学者が一人
も出ずに卒業式
を迎えるということ
だ。当然、クラス
で採め事

や問題が全くなかったわけではない。しかし、担任が仲裁に入る前に、当事者同士や周囲の人たちの協力でそれを解消または解決していた。クラスという小さな社会でみんなが少しずつ成長していった結果だと思っている。それに加えて、エネルギーでパワフルな先生方の叱咤激励を受け、部活動や進路実現に向けた努力を続けた人が多かったことが、落ち着いた雰囲気、気の学年となった要因でもあるだろう。いずれにしても、良い意味で――

「教師生活25年、こんな学年を持ったことはない」

これから卒業した皆さんが、高校で学んだことを胸に、それぞれの世界で活躍してくれることを期待している。

四十五期生の保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。今まで本校の様々な教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございました。

「卒業に寄せて」

三年五組担任 數本 倫紀



四十五期生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

三年前の入学式の時には遠い先の未来だった卒業の日、今卒業生は立っています。S.M.A.P.のヒット曲「夜空ノムコウ」にあのころの未来に僕は立っているのか、なという歌詞がありますが、人生はその繰り返しで続いています。いずれ到達する未来をどれだけ意識して時間を過ごすかが、夢や目標の実現のためには大事なことだと思います。高校での進路学習も全て未来の進路実現のためにやってきました。夢や目標が実現する未来を想像し、そのために今自分は何かができるかを考える。コロナ禍の高校生活を余儀なくされたみなさんですが、先を見通しにくい時代だからこそ、そのような考え方がみなさんの人生において力を与えてくれるはずです。

保護者の皆様方には、三年間に渡り、本校の活動にご理解ご協力をいただきました。このことを、心より感謝申し上げます。高校卒業により、お子さんたちは自立への道を歩進みました。が、これから厳しい社会に出て行く中で、今までどれだけ自身が親やまわりの人たちのお世話になつてきたか守られてきたかを実感すると思います。そのときに感じる感謝の気持ち「成長」の証であり、その気持ちを忘れず、自分の道を立派に歩んでほしいと思います。最後に、この三年間でご縁をいただいたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

「南極の魚」

三年六組担任 佐藤 辰美



卒業おめでとう。最後に、過去に聞いた南極の魚の話をおく。南極隊員は趣味と実益を兼ね、水に穴を開け釣りをしたという。餌は食った肉の切れ端を使った。よく釣れたという。紅シロウガをつけてよく釣れた。餌が関係ないなら針だけで釣りをしたらどうかとやってみたら、なんと針だけで釣れたという。しかし、何匹か釣れたらその後全く釣れなくなった。餌をつけても釣れない。それで別の穴を開けて釣るとまた釣れ出す。しかし釣り続けると、前と同様に全く釣れなくなる。このようなことを繰り返していくと次のようなことがわかった。南極の魚は、海底でじっとしていて、死んだりして落ちてくるオキアミの類を食べている。だから釣り針でも何でも食いつくのだ。しかし、穴の範囲の魚を釣り上げるといなくなってしまうために釣れなくなる。

南極の魚は自分で追いかけて餌はどうとしない。それに習った魚は何でも食らいつく。君たちには「南極の魚」にはなってもらいたくない。言われたことだけはやるが、自分で考えること、実行していくことができない人間にはなってもらいたくない。自分自身の信念をもつて行動してもらいたい。君たちの将来に期待します。

保護者の皆様、お子様の卒業おめでとうございます。色々と教育活動にご協力いただきありがとうございます。入学してから三年、いろいろな経験をして成長してきました。今後もしっかりな経験を、さらに成長していくことと思います。期待して見守っていただけだと思います。

「元気があれば何でもできる」

三年七組担任 川端 健市



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年前の四月、私は皆さんの入学と同時に丘珠高校に赴任し、皆さんと同じ時間をこの学校で共に過ごしてきました。とても充実した三年間でした。比較的小しやべりな私ですので、大事なことはホームルームや授業で直接話してきたつもりです。言ってもそのほとんどが川端家の話でしたね。

。いやいや、生活の中に気づきや学びがあるのです。

さて、AIや新型コロナウイルス感染症、天災に異常気象、歴史的に見れば明治維新に勝る現在だと思えます。そんな時だからこそ、「元気が一番、元気があれば何でもできる」ということが大切だと感じています。世の中が複雑や不安になっているからこそ、私たちがやるべきことは、元気に挨拶や返事、一生懸命取り組むなど単純なことではないです。ぜひ、新しい場所や君たちの元気を広めていき、充実した生活を送れることはもちろん、その周りまでも元気にしていって欲しいと願っています。

この道を行けばどうなるものか。危ぶむなかれ、危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となり、その一足が道となる。迷わず行け、行けばわかるさ。」

最後に、保護者の皆様におかれましては、学校教育に対しまして、温かいご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございます。本日はご卒業おめでとうございます。

「卒業おめでとう」

三年八組担任 水島 敬



第四十五期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

長くて短い三年間の高校生活。いろいろなことがあった。そして、あるべきもの、すくべきもの、大きな喜びと、深い感謝の気持ちがあふれています。

口べたな担任で、ホームルームでは思いを伝えるのに時間をかけてしまつことが多かったのですが、皆さんには、いつの時も「正直に」「親切に」「そして」「真剣に」事に当たって欲しいと願っています。また、皆さんは懸命に応えようとしていたと改めて思われます。

卒業生の皆さんに、最近聞いたある人の言葉を贈ります。

「知識はあっても邪魔にはならない。けれども無ければ悲しい思いをするのだそうです。いつも学びの姿勢を持ち続けよう。」

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。高校三年間のみならず、これまでのお子様との十八年間の苦勞はいかばかりかと拝察いたします。

お子様は、立派に成長なされました。これらご家庭の温かく厳しくご指導と、学校へのご理解ご協力のおかげと深く感謝申し上げます。

保護者の皆様、お世話になりました。三年間どうもありがとうございました。



見学旅行の思い出

二年一組 安居 夢都

まず初めに新型コロナウイルス感染症によって延期になってしまった見学旅行ですが、十二月に無事に実施できて、私たちは幸せです。

さて、私たちは見学旅行で金閣寺・清水寺・東大寺などの日本の歴史的文化的財に接することができました。この貴重な体験をしたことで、私たちは大きな感謝を受けました。この体験は私たちの教養となるだけでなく、日本の歴史と素晴らしさを身に染みて感じさせてくれました。

しかし、見学旅行で最上の喜びとなったのは、何と言っても友との交流です。普段、共に汗を流し、勉学に励む友人と寝食を共にします。意外な素顔の発見や新たな友情の芽生えなど、多くの忘れがたい思い出をつくることができました。特に忘れることのできない思い出となったのは、「自主研修」です。自主研修では日の大半を班員と過ごし、見知らぬ土地で公共交通機関を駆使して目的地に向かいます。その移動中の些細な交流や時間ですえ人生の大切な思い出のページとなりました。

そんな有意義な旅行もあつという間に過ぎ、気が付けば最終日。見学旅行が終われば進路実現という現実が、私たちを待っています。「もう少しだけ見学旅行を続けたい」、そう願っても私たちを乗せた飛行機は北海道に降り立ち、無情にも旅の終わりを告げたのでした。しかし、何故か帰りの機内でさえずり出したことも今となっては忘れられない思い出の一つです。

最後になりますが、多くの人の助けを受け、私たちは見学旅行に行くことができました。この経験で私は何気ない日常こそ多くの人の支えられているということに改めて気付くことができました。本当に大切なことを知るだけでなく、とても楽しい見学旅行でした。



見学旅行を終えて

二年主任 今野 哲也

十二月十二日(日)から十五日(水)、「三泊四日」の日程で京都 大阪 奈良へ見学旅行に行つてまいりました。この見学旅行で多くのことを学ぶことも、私たち引率教諭の大きな責務でした。そのため、旅行前から保護者の方々に多くのお願いをし、協力いただけたことに感謝しております。結果として、発熱ばかりか大きな事故や怪我さえもなく、コロナ禍の見学旅行を無事に終えることができ、心からホッとしております。

帰礼後のアンケートや研修録には「楽しかった」という感想が多く見られました。それと同時に「見学旅行に行くことができて良かった」という偽らざる心情も見受けられました。入学以来、新型コロナウイルス感染症のため、活動自粛を強いられることが多かったからでしょう。生徒と何となく見学旅行を行いたいという想いを共有し、生徒たちのはじけるような笑顔を見るのができた見学旅行は私にとっても生涯忘れがたいものとなりました。

さて、高校生活最大の学校行事でもあり、入学してからの二年間の集大成でもある見学旅行が終わりました。これからは一年後の進路実現に向けて生徒共々、頭を切り替えて進んでいければと思っています。



マラソン大会の給水活動

三年保護者 水上 美奈子



今年も十月に壬辰沼公園にて、毎年恒例のマラソン大会が行われました。コロナ禍ではありますが、先生方、PTA役員の方々の協力のおかげで滞りなく開催することができました。

私は給水所で給水活動をした後、途中からゴールで走り終えた生徒にスポーツドリンクを渡すお手伝いをさせていただきました。給水の準備は、昨年の反省点を覚えていっしょにやる保護者の方がいたため、スムーズに設置をすることができました。準備中や活動中に、学年を超えて保護者の皆さんとお話ができるのがお手伝いの魅力の一つだと思います。

三年間のお手伝いを通して、生徒たちが頑張る姿を取り組む姿を見ることができました。給水所やゴール地点では、生徒全員が「ありがとうございます。」と元気に挨拶する姿に感銘を受けました。

当日はレースが始まる時には、お手伝いの

令和3年度
後期PTA・後援会活動日誌

10月8日(金)	3月1日(火)
校内マラソン大会給水活動	第45回卒業式
10月13日(水)	「丘珠高だより」第123号発行
PTA 中間監査	3月10日(木)
10月20日(水)	第3回 PTA・後援会役員会(予定)
第2回 PTA・後援会役員会(中間反省)	第3回 PTA 運営委員会(予定)
第2回 PTA 運営委員会(中間反省)	3月下旬
11月24日(水)	PTA 監査(予定)
PTA 視察研修	
12月8日(水)	
第1回役員選考委員会	

視察研修に参加つて

研修委員長 武藤 可奈子

令和三年十月二十四日、初冬の空気が少し肌寒い朝、保護者九名教員三名にて、今年度の視察研修へ出発しました。

札幌から小樽へと進むにつれ天候が崩れ吹雪になり、初めの目的地「小樽運河クルーズ体験」へ向かっていた同にざわめきが起きました。クルーズ体験中止の連絡を受け安堵し、田中酒造亀甲蔵へ日本酒製造所見学に向かいました。小樽市の「歴史的建造物」に指定されている蔵で雰囲気を感じ、北海道の特色を生かした酒造りの話を聞き、間近でめずらしい酒造工程を見学しました。昼食はホテル小樽の「SUN」にてランチビュッフェ。野菜を中心とした彩り豊かな和洋メニュー、ライブコーナーのステーキ、デザート堪能し、大きな窓から見える小樽運河を楽しみながら保護者と先生方との情報交換が出来ました。午後は北硝子で「とんぼ玉アレンジ体験」、好みのとんぼ玉を選び可愛いストラップを制作しました。また、道中に「かま栄」

「北海道ワイン」に

寄りお買い物を。今回の研修は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じたうえでの実施となりましたが、参加されたみなさまの両手にはたくさんのお土産と、とてもにやかな表情から、楽しんでもらえたなと感じました。



(前号のつづきからです。
記載以外は前号6〜7頁をご覧ください。)

[illegible]

【女子バドミントン部】
令和3年度北海道選手権大会

【ボウティア部】 北海道道立文連第18回全道高等学校ボウティア研究大会 全道指教者養成講座 参加生徒 2年 八重樫春流	個人・ダブルス 1回戦 上田心晴・佐藤友希乃 0 2 0 2 2回戦 松本彩花・山根美歩 2 0 2 2 3回戦 西村楓・山根美歩 0 0 2 0 4回戦 松本彩花・山根美歩 2 2 0 2		個人・シングル 1回戦 山根美歩 2 2 0 0 2回戦 山根美歩 2 2 0 0 3回戦 山根美歩 2 2 0 0 4回戦 山根美歩 2 2 0 0		【剣道部】 第67回北海道高等学校剣道選手権大会 令和3年6月15日（火）18日（金） 苫小牧市総合体育館 男子個人戦 石井 謙友：2回戦敗退 第10回上川学校剣道連盟高等学校新人剣道大会 令和3年12月11日（土）旭川市東光スポーツ公園「武道館」 男子団体戦 予選リーグ 女子団体戦（合同チーム） 予選リーグ 対旭川龍谷A 敗退 対旭川龍谷 敗退 対旭川大学高 敗退		【放送局】 北海道高等学校文化連盟第44回放送コンテスト ビデオメッセージ 流れゆくモノ 第8位入賞		【書道部】 第55回全道高等学校書道展「研究大会」 優秀賞 2年 武内清美恵 優秀賞 2年 川島清美恵 第56回全道学校書道展 特選 3年 木村 彩華 特選 3年 坂井ななせ 特選 3年 花音 特選 2年 武島かんな 秀作 2年 長谷川修優 秀作 2年 大野 陽華		【写真部】 北海道高等学校文化連盟第45回全道高等学校写真展 2年 柴田大夢 「幸持のり」 佳作 2年 栗田大夢 「気持ちのいい朝」 入選		【家庭クラブ】 令和3年度北海道高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会 最優秀賞 2年 横市心愛 ホムプロダクトの部「我が家の料理改革」無駄をなくそう		【書道部】 第30回国際高校生選拔書展 【家庭クラブ】 第69回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会 ホムプロダクトの部「相対との暮らし」楽しく豊かに！ 全国高等学校長協会家庭部会賞 3年 平川沙季		【全国大会】		【活動報告】		【ボウティア部】 北海道道立文連第18回全道高等学校ボウティア研究大会 全道指教者養成講座 参加生徒 2年 八重樫春流		個人・ダブルス 1回戦 上田心晴・佐藤友希乃 0 2 0 2 2回戦 松本彩花・山根美歩 2 0 2 2 3回戦 西村楓・山根美歩 0 0 2 0 4回戦 松本彩花・山根美歩 2 2 0 2		個人・シングル 1回戦 山根美歩 2 2 0 0 2回戦 山根美歩 2 2 0 0 3回戦 山根美歩 2 2 0 0 4回戦 山根美歩 2 2 0 0		【剣道部】 第67回北海道高等学校剣道選手権大会 令和3年6月15日（火）18日（金） 苫小牧市総合体育館 男子個人戦 石井 謙友：2回戦敗退 第10回上川学校剣道連盟高等学校新人剣道大会 令和3年12月11日（土）旭川市東光スポーツ公園「武道館」 男子団体戦 予選リーグ 女子団体戦（合同チーム） 予選リーグ 対旭川龍谷A 敗退 対旭川龍谷 敗退 対旭川大学高 敗退		【放送局】 北海道高等学校文化連盟第44回放送コンテスト ビデオメッセージ 流れゆくモノ 第8位入賞		【書道部】 第55回全道高等学校書道展「研究大会」 優秀賞 2年 武内清美恵 優秀賞 2年 川島清美恵 第56回全道学校書道展 特選 3年 木村 彩華 特選 3年 坂井ななせ 特選 3年 花音 特選 2年 武島かんな 秀作 2年 長谷川修優 秀作 2年 大野 陽華		【写真部】 北海道高等学校文化連盟第45回全道高等学校写真展 2年 柴田大夢 「幸持のり」 佳作 2年 栗田大夢 「気持ちのいい朝」 入選		【家庭クラブ】 令和3年度北海道高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会 最優秀賞 2年 横市心愛 ホムプロダクトの部「我が家の料理改革」無駄をなくそう		【書道部】 第30回国際高校生選拔書展 【家庭クラブ】 第69回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会 ホムプロダクトの部「相対との暮らし」楽しく豊かに！ 全国高等学校長協会家庭部会賞 3年 平川沙季		【全国大会】		【活動報告】		【ボウティア部】 北海道道立文連第18回全道高等学校ボウティア研究大会 全道指教者養成講座 参加生徒 2年 八重樫春流		個人・ダブルス 1回戦 上田心晴・佐藤友希乃 0 2 0 2 2回戦 松本彩花・山根美歩 2 0 2 2 3回戦 西村楓・山根美歩 0 0 2 0 4回戦 松本彩花・山根美歩 2 2 0 2		個人・シングル 1回戦 山根美歩 2 2 0 0 2回戦 山根美歩 2 2 0 0 3回戦 山根美歩 2 2 0 0 4回戦 山根美歩 2 2 0 0		【剣道部】 第67回北海道高等学校剣道選手権大会 令和3年6月15日（火）18日（金） 苫小牧市総合体育館 男子個人戦 石井 謙友：2回戦敗退 第10回上川学校剣道連盟高等学校新人剣道大会 令和3年12月11日（土）旭川市東光スポーツ公園「武道館」 男子団体戦 予選リーグ 女子団体戦（合同チーム） 予選リーグ 対旭川龍谷A 敗退 対旭川龍谷 敗退 対旭川大学高 敗退		【放送局】 北海道高等学校文化連盟第44回放送コンテスト ビデオメッセージ 流れゆくモノ 第8位入賞		【書道部】 第55回全道高等学校書道展「研究大会」 優秀賞 2年 武内清美恵 優秀賞 2年 川島清美恵 第56回全道学校書道展 特選 3年 木村 彩華 特選 3年 坂井ななせ 特選 3年 花音 特選 2年 武島かんな 秀作 2年 長谷川修優 秀作 2年 大野 陽華		【写真部】 北海道高等学校文化連盟第45回全道高等学校写真展 2年 柴田大夢 「幸持のり」 佳作 2年 栗田大夢 「気持ちのいい朝」 入選		【家庭クラブ】 令和3年度北海道高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会 最優秀賞 2年 横市心愛 ホムプロダクトの部「我が家の料理改革」無駄をなくそう		【書道部】 第30回国際高校生選拔書展 【家庭クラブ】 第69回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会 ホムプロダクトの部「相対との暮らし」楽しく豊かに！ 全国高等学校長協会家庭部会賞 3年 平川沙季		【全国大会】		【活動報告】		【ボウティア部】 北海道道立文連第18回全道高等学校ボウティア研究大会 全道指教者養成講座 参加生徒 2年 八重樫春流		個人・ダブルス 1回戦 上田心晴・佐藤友希乃 0 2 0 2 2回戦 松本彩花・山根美歩 2 0 2 2 3回戦 西村楓・山根美歩 0 0 2 0 4回戦 松本彩花・山根美歩 2 2 0 2		個人・シングル 1回戦 山根美歩 2 2 0 0 2回戦 山根美歩 2 2 0 0 3回戦 山根美歩 2 2 0 0 4回戦 山根美歩 2 2 0 0		【剣道部】 第67回北海道高等学校剣道選手権大会 令和3年6月15日（火）18日（金） 苫小牧市総合体育館 男子個人戦 石井 謙友：2回戦敗退 第10回上川学校剣道連盟高等学校新人剣道大会 令和3年12月11日（土）旭川市東光スポーツ公園「武道館」 男子団体戦 予選リーグ 女子団体戦（合同チーム） 予選リーグ 対旭川龍谷A 敗退 対旭川龍谷 敗退 対旭川大学高 敗退		【放送局】 北海道高等学校文化連盟第44回放送コンテスト ビデオメッセージ 流れゆくモノ 第8位入賞		【書道部】 第55回全道高等学校書道展「研究大会」 優秀賞 2年 武内清美恵 優秀賞 2年 川島清美恵 第56回全道学校書道展 特選 3年 木村 彩華 特選 3年 坂井ななせ 特選 3年 花音 特選 2年 武島かんな 秀作 2年 長谷川修優 秀作 2年 大野 陽華		【写真部】 北海道高等学校文化連盟第45回全道高等学校写真展 2年 柴田大夢 「幸持のり」 佳作 2年 栗田大夢 「気持ちのいい朝」 入選		
--	--	--	--	--	---	--	---	--	---	--	--	--	--	--	---	--	---------------	--	---------------	--	--	--	--	--	--	--	---	--	---	--	---	--	--	--	--	--	---	--	---------------	--	---------------	--	--	--	--	--	--	--	---	--	---	--	---	--	--	--	--	--	---	--	---------------	--	---------------	--	--	--	--	--	--	--	---	--	---	--	---	--	--	--	--

『今年度の進路決定状況』

進路指導部長 能瀬 理恵子

今年度の進路決定状況については、二月十日現在で、進学が総合型選抜や学校推薦型選抜を中心に、国公立大学6名、私立大学89名、短期大学7名、専門学校123名が合格しています。また、就職は公務員2名、民間就職15名が合格しています。一月に行われた大学入学共通テストには33名が受験し、三月末まで続く一般選抜試験にチャレンジしています。最後まで諦めず、全力を出し切って欲しいです。

さて、コロナ禍での進路選択も二年目を迎え、対面式のイベントが次々とオンラインに代わり、web説明会やweb出願など、インターネット環境なしでは志望校、志望職種選び、出願、面接試験も行えない時代となりました。今後この方式が一般

化していくことが考えられます。自分の進路を決める際に、ネット上に溢れる膨大な情報の中、自分にとって必要なものだけを、いかに早く見つけ出し、自己の進路目標実現に向けての準備を始められるのが求められていきます。誰かが何かを教えてくれるのを「待つ姿勢」から、自ら知りたい情報をインターネットをフル活用して手に入れていく「攻めの姿勢」が必要になります。

この春、丘珠高校を旅立つ三年生の皆さんが、自ら選んだ「道」に自信を持ち、これからの新しい世界で大きく羽ばたいてくれることを祈っています。

今年度の合格状況

国公立大学

大 学 名	合格者数
小樽商科大学	2
札幌市立大学	2
釧路公立大学	1
公立千歳科学技術大学	1

私立大学

大 学 名	合格者数
北海学園大学	11
北星学園大学	8
北海商科大学	1
札幌学院大学	19
札幌大学	11
北海道科学大学	5
北海道医療大学	3
日本医療大学	7
札幌保健医療大学	3
酪農学園大学	1
東海大学	3
藤女子大学	2
札幌国際大学	2
北翔大学	4
北海道情報大学	4
北海道文教大学	1
星槎道都大学	4

短期大学

大 学 名	合格者数
北海道武蔵女子短期大学	3
北星学園大学短期大学部	1
光塩学園女子短期大学	2
札幌大谷大学短期大学部	1

その他

区 分	合格者数
専門学校	123
公務員	2
民間職員	15

※今年度の数字は、令和4年2月10日現在のものです。

家庭クラブ 3年連続全国大会へ

本校一年生の種市心愛さんが、令和三年度北海道高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会「のほろプロジェクトの部」において「我が家の料理改革！〜無駄をなくそう〜」と題して研究発表し、見事、最優秀賞に輝きました。種市さんは、令和四年度に開催される「第70回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会」(7月28日、29日・山形県)への参加の権利を得ました。



イルミネーション点灯式

丘珠高校の生徒玄関前に、今年もイルミネーションが点灯されました。これは昨年、コロナ禍で生徒の励ましになるようなことはできないかと、生徒会執行部が企画してくれたのが始まりです。今年もぜひやってほしいという多くの声を受けて、十二月七日、点灯式が行われました。



編集後記

広報委員長 小川 千夏

第四十五期生の皆さん、そして保護者の皆様、卒業おめでとうございます。

今年度も、コロナ禍で制限もありましたが、先生方の感染症対策などの対応により、各学校行事を開催することができました。様々な葛藤もあったかと思いますが、大変な中、ありがとうございました。

学校行事の活動や、部活動、また、学校外で活躍をしている生徒、資格取得に頑張っている生徒など、まだご紹介したいことが山ほどありますが、その中から一部をご紹介します。丘珠高だよりを通して、丘珠高校生の輝きをお届けいたしました。

本号の発行にあたり、寄稿してくださいました皆様、感謝申し上げます。そして、日頃よりPTA活動にご協力くださいました保護者の皆様、ありがとうございました。この年を通しての活動が、いづか丘珠高校生の飛躍の助けとなるでしょう。

今後も、丘珠高だよりが、生徒・先生方・保護者との架け橋になれば幸いです。

